

天川水陰草ノ秋風ニナビクヲミレバ時ハキニケリ

此水陰草バ、稻ノ一名ト見タリ、其故ハ、銀河天水ノ惠ニテ、苗代水ノ始ヨリ、稻花成熟ノ時マデ、雨露ノ恩ニ浴スル也、是天漢ノ水陰ノ草ト云心ナリ、

〔萬葉集抄 十二〕水かげ草とは、稻の名也といへり、水におふる草なれば、みづかげぐさと云成べし、さてみづかげといひいでんため、の諷詞に、あまのがはとおけり、そらのいろはみどりなるに、あまのがはのしろきは、しら浪のうかびたるやうにみゆれば、水のかげのうつりてみゆるによそへて、あまのがは水かげぐさとつゞくるなり、

〔藻鹽草 三 儀〕田

水かげ草 是も夏の田也、あるひは、たゞいれの名ともいふ、

〔藏玉和歌集 夏〕水懸草 夏田 天智天皇花盡異名

とくうへて吾田の面に秋まちて水かけ草ぞ蒞しほとなる

〔新勅撰和歌集 秋 四〕七夕後朝の心をよみ侍ける

藤原清輔朝臣

天河水かけ草にをく露やあかぬわかれの涙なるらん

〔藻鹽草 三 儀〕田

たのみ草 いれ也、 秋待草 夏田也、

〔藏玉和歌集 夏〕秋待草 夏田 異名也、

基後詠出 水かけて秋まつ草のよなくに露とみゆるはもしほたるかも

〔倭訓栞 中編 二〕いなだね 古事記に稻種と見ゆ、尾張姓の祖に武稻種命あり、

〔出雲風土記 飯石郡〕多禰郷、屬郡家所造、天下大神大穴持命、與須久奈比古命、巡行天下時、稻種墮此

處、故云種 神龜三年、改字多禰